

1型糖尿病「治らない」から「治る」  
— "不可能を可能にする" —  
を応援する

# 100人委員会

日本IDDMネットワークは、1型糖尿病研究基金により1型糖尿病を"治す"ための研究を応援しています。さらにこの取り組みを応援する100人委員会が2011年1月に立ち上がりました!!



1型糖尿病「治らない」から「治る」

—“不可能を可能にする”—

を応援する

# 100人委員会趣意書

1型糖尿病を発症すると患者と家族は「治らない」ことで絶望します。

しかし、医学・医療の現場では「治る」ことの実現に向けた挑戦が続いています。

特定非営利活動法人日本IDDMネットワークでは、2005年8月に1型糖尿病根治に向けた研究開発を促進する目的で「1型糖尿病研究基金」を設立しました。

日本IDDMネットワークは、法人化10周年を契機に「治らない」から「治る」というミッションを新たに掲げ、行政に依存することなく当事者主導による社会変革に向けて挑戦を始めています。

日本IDDMネットワークが手本としたアメリカのJDRF (Juvenile Diabetes Research Foundation International 米国1型糖尿病研究基金) は、年間200億円以上の資金を集め、研究資金を提供しています。

一方で、日本IDDMネットワークは基金設立以来5年間でようやく5件500万円の研究費助成となっています。

これは、米国と日本との寄付文化の違いというだけなのでしょうか。

私たちは、1型糖尿病「治らない」から「治る」—“不可能を可能にする”—という取り組みに対して“国民参加”を訴えるべく、ここに100人委員会を設立いたします。

100人委員会の役割は、

- 不可能を可能にするこの取り組みを“社会に発信”すること
  - 不可能を可能にするこの取り組みの“戦略に助言”すること
  - 不可能を可能にするこの取り組みに“参加”し患者と家族に勇気を与えること
- です。

この「治らない」病気が「治る」という社会変革への挑戦を応援してください。

2011年1月31日

発起人代表

井上 龍夫	特定非営利活動法人日本IDDMネットワーク理事長
鶴尾 雅隆	特定非営利活動法人日本ファンディング協会常務理事
小川 渉	ロシュ・ダイアグノスティクス株式会社代表取締役社長兼CEO
川北 秀人	I IHOE [人と組織と地球のための国際研究所]代表
クラウス アイラセン	ノボ ノルディスク ファーマ株式会社代表取締役社長
黒田 祐	株式会社富山グラウジーズ代表取締役社長
後藤 昌史	東北大学未来科学技術共同研究センター教授
島田 隆	日本メドトロニック株式会社代表取締役社長
中内 啓光	東京大学医科学研究所幹細胞治療研究センター長
西川 伸一	理化学研究所発生・再生科学総合研究センター副センター長
松本 慎一	米国バイラー膝島細胞研究所ディレクター

以上、五十音順

# 100人委員会

私も応援しています。

## 応援メッセージ

Ryu Murakami



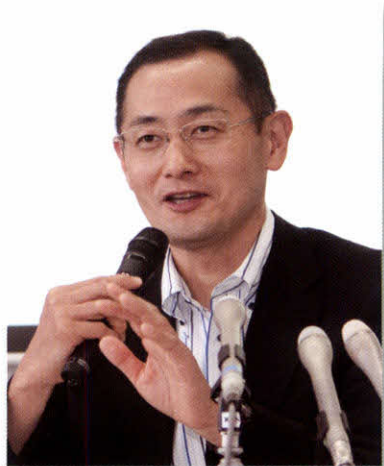
### 村上 龍 作家 映画監督

1922年、世界で最初にインスリン投与が行われました。まだ100年も経っていません。インスリンの補充ができなかった時代には、1型糖尿病は確実に死に至る病気でした。現在、すでに確立されている「すい臓移植」の他に、「膵島移植」や「人工膵島」、さらに「再生医療」「遺伝子治療」などの先端的な研究が進められています。「『治らない』から『治る』へ」という日本IDDMネットワークの指針は、人類の英知の結晶である生命科学への信頼と希望を象徴するものです。

日本IDDMネットワークでは、「1型糖尿病研究基金」を募っています。この基金へのご協力・ご支援を、多くの人にお願ひしたいと思います。この基金は、1型糖尿病の患者さんご家族への支援にとどまらず、生命科学、および医学への貢献にも寄与するものです。

#### <Profile>

1952年長崎県出身。1976年『限りなく透明に近いブルー』で群像新人文学賞、芥川賞を受賞。著書に『コインロッカー・ベイビーズ』『愛と幻想のファシズム』『五分後の世界』『希望の国のエクソダス』『半島を出よ』など。メールマガジン『JMM』を主宰するなど、文壇以外の世界にも積極的に関わる。



## 山中 伸弥 京都大学 iPS細胞研究所長

私自身は糖尿病の研究はしていませんが、父が2型糖尿病で「インスリン依存状態」でしたので、とにかくインスリン注射を何とかしたいという思いがあります。そして私が所長を務める京都大学iPS細胞研究所(CiRA=サイラ)のこの10年間の再生医療による臨床応用のターゲットの一つが糖尿病です。ほんとうに糖尿病を何とかしたいと思っています。

日本IDDMネットワークが「1型糖尿病を治す」ための研究基金を作って研究費を支援されていることは本当に大切です。そして同時に研究者たちとの接点や交流を持つ活動をされていることも重要なことです。私たち研究者の研究への大きなモチベーションは研究の成果を待っている患者さんがすぐそばにいることを知って、何とか貢献したいという思いなのです。また日夜、新しい治療の開発のためにがんばっている研究者がいるということを知って、患者・家族の皆さんにも知っていただくことで、希望をもていただければと思います。

### <Profile>

1987年神戸大学医学部卒業後、国立大阪病院で臨床研修医。1993年大阪市立大学大学院医学研究科修了。米国グラッドストーン研究所博士研究員などを経て、1999年奈良先端科学技術大学院大学助教授、2003年教授。2004年京都大学再生医科学研究所教授、2008年京都大学物質・細胞統合システム拠点iPS細胞研究センター長。2010年4月から京都大学iPS細胞研究所所長、2012年ノーベル生理学・医学賞受賞。

## Minoru Iwata



## 岩田 稔 阪神タイガース プロ野球選手(投手)

僕は高校2年生の冬に1型糖尿病と診断されました。病気だと分かった直後は、なぜ自分がこんな病気にならなければならないのかと自分の人生を恨んだりもしました。しかし、主治医の先生や家族、仲間からの支えもあり、希望が持てるようになりました。

阪神タイガースからの指名を受けた時は、本当にうれしかったです。同時に自分の使命のような思いを強く持ちました。それは病気でも健康な人と同じように何でもできることを証明し、みんなの希望になることです。

同じ1型糖尿病を持つ子供たちへの支援として、日本IDDMネットワークとの協力による甲子園球場での子供たちとの交流会と試合観戦招待を行っています。このような活動は、僕にしかできない事なので、僕がプロ野球選手である限り、これからも続けていきたいと思っています。

そして『「治らない」から「治る」へ』という1型糖尿病の根治に向けた研究は、僕も含め大勢の患者さんにとって大きな希望です。しかし、研究にはまだまだ時間も、沢山の費用もかかります。僕は、公式戦での勝利数に応じて日本IDDMネットワークが設立された「1型糖尿病研究基金」へ寄付をしています。皆さんも、ご賛同いただける方は、この1型糖尿病研究基金への寄付をお願いします。

### <Profile>

阪神タイガース投手(左投げ) 1983年生まれ。大阪桐蔭高校のエースピッチャーだった高2の冬に1型糖尿病を発症。卒業後に社会人野球のチームに決まりかけていたが病気を理由に取り消され、関西大学に進学。大学での活躍により、2005年のドラフトで希望入団枠制度により阪神へ入団。2008年にプロ初勝利、その年先発投手として10勝を挙げた。2009年には第2回WBC日本代表に選出され、日本の大会2連覇に貢献した。2010年はひじの手術を受け1年間登板はなかったが、2011年に1軍復帰し、先発ローテーションの一角として活躍している。

## Shin-Ichi Nishikawa



## 西川 伸一

理化学研究所 発生・再生科学総合研究センター 副センター長  
幹細胞研究グループディレクター

日本は個人寄付税制が最も進んだ国になりました。折しも、東北地方を襲った大震災を目にした国民に、寄付の精神が生まれたことは間違いありません。あと、税制控除の対象となる公益法人さえ増えてくれば、全く新しい国を作ることが出来ます。1型糖尿病研究基金がその先頭に立って日本を変えることを期待します。

### <Profile>

1948年生まれ。1973年京大医卒、京都大学結核胸部疾患研究所にて研修医、医員、助手を経て、1980年より基礎医学に進み、毎日作られては壊される細胞の新陳代謝の根元を支えている「幹細胞」について研究を続けている。1983年ドイツケルン大学遺伝学研究所に留学。帰国後、京都大学胸部疾患研究所にて助手、助教授を勤めた後、1987年熊本大学医学部教授、1992年より京都大学大学院医学研究科教授を歴任、2000年理化学研究所発生・再生総合科学センターの副センター長および幹細胞研究グループを併任。2003年4月京大を辞し、現職に専念。若い研究者とともに幹細胞研究を進めると平行して、新しい日本の出島神戸ポートアイランドから日本の医療のあるべき姿について提案を続けている。

## Shinichi Matsumoto



## 松本 慎一

株式会社大塚製薬工場 研究開発センター 特別顧問

1970年、アメリカで1型糖尿病の患者さんのご家族が、研究により1型糖尿病を治してほしいという願いを込めて小児糖尿病研究基金 (Juvenile Diabetes Research Foundation, JDRF) を設立しました。この頃、ネズミの実験で膵島移植によって糖尿病が治る可能性があることが示されていました。その後、膵島移植の研究は、40年以上JDRFによって支えられ、現在第三相臨床試験がほぼ修了し標準治療となるまで後一步の所までできました。

2004年、日本でも膵島移植が開始されたことがきっかけで、2005年に日本IDDMネットワークにより1型糖尿病基金が設立されました。膵島移植は、新しい1型糖尿病の治療ですが、臓器提供に頼る治療であり極めて限られた患者さんにしか活用できません。その解決策として提供臓器に頼らない1型糖尿病の根治的治療として、「バイオ人工膵島移植」「再生医療」「遺伝子治療」の研究が精力的に行われています。ただ、こういった研究は研究者任せにしておくと、ややもすると、論文を書くための研究となりがちです。患者さん達と研究者が協力し合うことで、本当に、糖尿病を「治らない」から「治る」病気にする研究が進みます。

日本IDDMネットワークの1型糖尿病基金は資金提供だけでなく、患者さん達が本当に何を研究者に期待しているかを伝える役割も担うことが出来ます。みんなの英知を集めて、糖尿病を「治らない」から「治る」病気に変えましょう。

### <Profile>

1988年神戸大学医学部卒業、神戸大学第一外科入局。1996年神戸大学院医学科外科学修了。1997年ミネソタ大学外科留学。1999年ワシントン大学移植外科留学。2002年京都大学病院臓器移植医療部助手。2006年藤田保健衛生大学消化器第二外科教授。2006年帝京大学医学部客員教授。2007年ベイラー膵島移植研究所ディレクター。2009年ノーステキサス大学バイオサイエンス科客員教授。2012年大塚製薬工場研究開発センター特別顧問。

# 100人委員会 委員名簿

2013年3月12日現在

AM James Shapiro	アルバータ大学外科 教授
渥美 義仁	永寿総合病院 糖尿病臨床研究センター センター長
穴澤 貴行	福島県立医科大学医学部臓器再生外科 助教
粟田 卓也	埼玉医科大学内分泌・糖尿病内科 教授
池田 昌人	ソフトバンクモバイル株式会社 CSR 企画部部长
石垣 泰	東北大学大学院分子代謝病態学分野 准教授
いとう あつこ	フラワーコーディネーター
伊藤たてお	一般社団法人日本難病・疾病団体協議会 代理理事
井上 龍夫	認定特定非営利活動法人日本 IDDM ネットワーク 理事長
井上 優	特定非営利活動法人 i さいと 代表理事
イノウエ ヨシオ	ファンドレイジング・プロデューサー
岩田 稔	阪神タイガース プロ野球選手 (投手)
岩永 幸三	地域に飛び出す公務員を応援する首長連合 事務局長
植木浩二郎	東京大学大学院医学系研究科生体防御腫瘍内科学講座代謝・栄養病態学 准教授
鶴尾 雅隆	特定非営利活動法人日本ファンドレイジング協会 代表理事
宇田川規夫	国際救急法研究所 理事長
梅村 聡	参議院議員
江島 伸一	ノボ ノルディスク ファーマ株式会社 常務取締役
大西 健介	衆議院議員
大西 健丞	認定特定非営利活動法人 ピースウィンズ・ジャパン 統括責任者・代表理事
大村 詠一	エアロビック競技者
小笠原 信	ロシュ・ダイアグノスティクス株式会社 代表取締役社長兼CEO
尾崎 信暁	名古屋大学総合保健体育科学センター 特任准教授
長船 健二	京都大学 iPS 細胞研究所 准教授
柏原 米男	大阪市立大学大学院医学研究科発達小児医学 医師
桂 信隆	ソニアシステム株式会社 代表取締役
門脇 孝	社団法人日本糖尿病学会 理事長、東京大学医学部附属病院 院長
川北 秀人	IIHOE[人と組織と地球のための国際研究所] 代表
川崎 直人	企業支援コンサルタント
川村 智行	大阪市立大学大学院医学研究科発達小児医学 講師
菅 文彦	合同会社コース・アクション 代表
菊池 透	新潟大学大学院医歯学総合研究科小児科学分野 准教授
京野 文代	特定非営利活動法人日本慢性疾患セルフマネジメント協会 理事
楠 裕史	発明家
久野 建夫	佐賀大学文化教育学部 教授
桑 昭苑	熊本大学発生医学研究所幹細胞部門多能性幹細胞分野 教授
クラウス アイラセン	ノボ ノルディスク ファーマ株式会社 代表取締役社長
栗田 剛夫	福井エフエム放送株式会社 代表取締役社長
黒田 祐	株式会社富山グラウジーズ 代表取締役社長
剣持 敬	藤田保健衛生大学医学部臓器移植科 教授
後藤 昌史	東北大学未来科学技術共同研究センター 教授
後藤 満一	福島県立医科大学臓器再生外科学講座 教授
駒崎 弘樹	特定非営利活動法人フローレンス 代表理事
櫻井 健一	君津中央病院内分泌代謝科 部長
鮫島 雅子	有限会社プレシヤス・アイ 代表取締役
更家 悠介	サラヤ株式会社 代表取締役社長

重徳 和彦	衆議院議員
篠塚 周城	佐賀県議会難病対策推進議員連盟 会長
島田 隆	日本メドトロニック株式会社 代表取締役社長
白木 夏子	株式会社 HASUNA 代表取締役
鈴木 武	株式会社メディカル・ジャーナル社 代表取締役社長
角 昭一郎	京都大学再生医科学研究所器官形成応用分野 准教授
陶山えつ子	公益財団法人熊本県林業従事者育成基金 評議員
曾根原久司	特定非営利活動法人えがおつなげて 代表理事
田尻 佳史	認定特定非営利活動法人日本 NPO センター 常務理事
田中 佳代	久留米大学医学部看護学科母性看護学 准教授
棚田 信子	株式会社ドウゾ 代表取締役
谷口 英樹	横浜市立大学大学院医学研究科臓器再生医学 教授
津下 一代	あいち健康の森健康科学総合センター センター長
鋼場 一成	日本イーライリリー株式会社 糖尿病・成長ホルモン事業本部長
徳永 洋子	特定非営利活動法人日本ファンドレイジング協会 事務局長
登内 芳也	一般社団法人チームともだち 代表理事
中内 啓光	東京大学医科学研究所幹細胞治療研究センター幹細胞治療分野 教授
中神 啓徳	大阪大学大学院連合小児発達学研究科健康発達医学寄附講座 教授
中島英太郎	中部ろうさい病院糖尿病内分泌内科・糖尿病センター 部長
中村 大樹	株式会社バリューブックス 代表取締役
中村 嘉克	株式会社エヌワイ企画 代表取締役
仁木 博文	医師・前衆議院議員
西川 伸一	理化学研究所発生・再生科学総合研究センター 副センター長
西田 健朗	水俣市立総合医療センター糖尿病内分泌センター 所長
西村 理明	東京慈恵会医科大学糖尿病・代謝・内分泌内科 准教授
能勢 謙介	慢性疾患患者支援プロジェクト・MYSTAR-JAPAN 代表
野津 喬	カバヤ食品株式会社 代表取締役社長
橋本 友美	はぐはぐキッズクリニック 副院長
早瀬 昇	社会福祉法人大阪ボランティア協会 常務理事
番度 行弘	福井県済生会病院 内科部長
広瀬 正和	大阪市立大学大学院医学研究科発達小児医学 医師
廣田 勇士	神戸大学医学部付属病院糖尿病・内分泌内科 助教
藤原 幾磨	東北大学大学院医学系研究科小児病態学分野 准教授
古川 康	佐賀県知事
松原 明	特定非営利活動法人シーズ・市民活動を支える制度をつくる会 事務局長
松本 慎一	株式会社大塚製薬工場研究開発センター 特別顧問
三好 秀明	北海道大学大学院医学研究科免疫・代謝内科学分野 講師
村上 龍	作家・映画監督
森 秀文	株式会社オーイーシー 代表取締役社長
森下 竜一	大阪大学大学院医学系研究科臨床遺伝子治療学 教授
森地 一夫	日本ボーイスカウト兵庫連盟 県連盟コミッショナー
柳澤 克之	市立札幌病院糖尿病内分泌内科 部長
矢野まゆみ	医療法人社団社の木会 理事長
山中 伸弥	京都大学 iPS 細胞研究所 所長
山本 康史	特定非営利活動法人みえ防災市民会議 議長
山守 越子	愛知厚生連海南病院糖尿病・内分泌内科 部長
吉澤 淳	認定特定非営利活動法人アトピZZ子地球の子ネットワーク 代表理事
和田 敏文	エクセルエイド少額短期保険株式会社 代表取締役社長
渡邊智恵子	株式会社アバンティ 代表取締役
渡辺 裕二	株式会社トップ 代表取締役社長

以上、五十音順

# NO More 注射募金

## マンスリーサポーター 募集のお知らせ



ゆうこちゃんは毎日5回、生涯15万回の注射を打ちます。現在5歳のゆうこちゃんには9000回の注射を打っています。この子の手には“注射”ではなく“希望”を握らせたい。この病気を治す“ノーモア注射基金”にご協力ください。

日本IDDMネットワークでは、～「治らない」から「治る」へ～を掲げ、1型糖尿病の根治につながる研究をしている研究者の方々に、研究費を助成する取り組みをおこなっております。

この研究費助成のための「1型糖尿病研究基金」に寄付をお願いする取り組みとして「No More注射募金」マンスリーサポーターの募集を開始しました。1口月額2,000円(＝カ月のインスリン注射費用の概ね半分に相当します)を口座引落としによりご寄付いただく仕組みです。

このほかの1型糖尿病研究基金へのご寄付は、以下のいずれかの口座へのお振込みをお願い申し上げます。

### ■みずほ銀行佐賀支店 普通預金

口座名義：特定非営利活動法人日本IDDMネットワーク  
口座番号：1629393

### ■ゆうちょ銀行（郵便局）

口座名義：特定非営利活動法人日本IDDMネットワーク  
口座番号：01710-9-39683

くわしくは 日本IDDMネットワーク Webサイトをご覧ください。

<http://japan-iddm.net>

日本IDDMネットワーク

日本IDDMネットワークは“認定NPO法人”です。ご寄付に当たっては、寄付金控除(所得控除・税額控除)、相続財産の非課税、損金算入限度額の拡大といった税制優遇措置を受けることができます。



「治らない」から「治る」へ

認定特定非営利  
活動法人

日本IDDMネットワーク

〒840-0801 佐賀県佐賀市駅前中央1-8-32 iスクエアビル3階 市民活動プラザ内  
TEL・FAX：0952-20-2062 Email：info@japan-iddm.net